

令和6年度 第1回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和6年5月30日（木曜日）午前10時から午前12時まで
 開催場所 東京都心身障害者福祉センター12階研修室
 出席者 妹尾委員長、橋爪副委員長、宮田副委員長、会田副委員長、徳武委員、小出委員、相良委員、岡田委員、樋口委員、渡辺委員、横山委員、清水委員、丹澤委員、吉田委員（欠席 皆川委員）
 事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名
 公益財団法人総合健康推進財団職員 4名

1 開会

事務局	- 資料確認（事前にメールにて送付済み） 次第 資料1 令和6年度東京都サービス管理責任者等研修検討会委員名簿 資料2 東京都サービス管理責任者等研修検討会設置要綱 資料3 令和6年度障害者総合支援法等関連研修検討会の構造図（案） 資料4 令和6年度障害者総合支援法等関連研修 年間スケジュール（案） 資料5 令和6年度東京都サービス管理責任者等研修検討会 年間活動方針及び計画案について 資料6 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダー※の姿 Ver. 5 参考資料1 令和5年度東京都サービス管理責任者等研修検討会 活動報告 参考資料2 令和5年度東京都相談支援従事者研修検討会 活動報告 - 研修委託先である、公益財団法人総合健康推進財団の方も参加している。 - 記録のために速記者の参加と録音をさせていただくこと、また、今回の検討会議事録（要旨）は、ホームページでの公開対象であることについてご了承ください。ただし、資料については、出席委員の意見により公開・非公開を決めることができる。
-----	--

2 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長挨拶

外川地域支援課長	- 令和6年度の第1回東京都サービス管理責任者等研修検討会の開催にあたり、理解と協力を頂き、また、大変お忙しい中、委員として就任頂き、感謝する。 - 事務局一同、本検討会が有意義なものとなるよう、皆様と一緒にサービス質の向上に資する取組を精力的に進めていきたいと思っている。 - 本検討会は、国が示した標準カリキュラムを効果的に円滑に進めるための具体
----------	---

	的なプログラムをつくり、そこで使用する教材等の提案をしていくということを目的にしている。 ・新たな標準カリキュラムの全体像が見えるようになり、改めて、それぞれの研修の繋がり、連動性を意識しながら一層実りあるものにするということを大切に考えている。 ・受講希望者の申込みが多い基礎研修の定員を300名増やすとともに、圧倒的に不足している演習指導者の養成研修の定員を50名に増やし実施する。委員の皆様には演習指導者養成研修への推薦を是非お願いする。 ・研修の実施にあたっては、今年も、研修委託先である公益財団法人総合健康推進財団の皆様と意見交換しながら、必要な人材がしっかりと確保できるよう努めていきたい。
--	--

3 委員等紹介

各委員	・自己紹介（記録省略）
総合健康推進財団各職員	・自己紹介（記録省略）

4 検討事項

（１）委員長・副委員長選出

①委員長の互選

事務局	・設置要綱の規定説明 ・委員長について委員より推薦頂きたい。
橋爪委員	・明星大学教授の妹尾先生を推薦する。
各委員	・承認する。
妹尾委員長	・選出頂き、感謝する。 ・今年度は、委員の皆さんに変更がなく、これまでのご経験等を更に積み上げていく方向について、皆様の期待に応えられるよう努めたい。本年度もよろしく願います。

②副委員長指名

妹尾委員長	・今年度は昨年度実施した研修内容の更なるブラッシュアップ、更新研修は令和6年度新たに実施するプログラムの準備となる。 ・副委員長は、基礎研修、実践研修、更新研修は昨年度に引き続き橋爪委員、宮田委員、会田委員にお願いしたいが、皆様いかがか。
各委員	・承認する。

③今年度の検討会の進め方

妹尾委員長	・昨年度の検討会の活動成果を確認する。参考資料１の２頁目「活動成果」を確認頂きたい。 ・今年度の取組については、参考資料１の５頁目「次年度の取り組み」を確認頂きたい。それから昨年度に引き続き、検討チームで研修、教材等についてご検討頂きたい。
-------	---

(２) 年間研修実施計画について

妹尾委員長	・今年度の研修スケジュールについて、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	・今年度の障害者総合支援法等関連研修の年間スケジュールを見ていただきたい。 表の一番上が障害支援区分関連研修、その次が相談支援従事者研修、一番下がサービス管理責任者等研修となっている。 【検討会】 ・年４回開催する。本日５月３０日が１回目、２回目が８月８日、３回目が１１月８日、４回目が３月１１日を予定している。 【基礎研修】 ・年間２回実施する。定員は、年間で２，４００名 ・第１回研修については、定員が１，２００人で現在募集中。講義が８月上旬、演習が８月から９月にかけて、１２日程実施する。 ・第２回基礎研修は、定員を１，２００人。講義が１１月上旬頃、１１月から１２月にかけて、１２日程実施する。 【実践研修】 ・年間の定員を１，６００名。年間１回で、講義は１２月下旬、演習は１月から２月にかけて、１２日程実施する。 【更新研修】 ・今年度カリキュラムが６時間から１３時間に増え、集合型演習が半日から１日となり、演習終了後動画配信を行う。 ・定員は１，４００名。年１回実施。講義が９月上旬頃、演習が９月から１０月にかけて１４日程実施する。 【専門コース別研修】 ・研修の実施は、１０月と１月。年間の定員は４００名。第１回の定員が２５０名、第２回の定員は１５０名。 【研修協力者】 ・本年度演習にご協力頂ける方は８５名登録を頂いた。 ・令和５年度にご協力頂いた８０名の方を当センターホームページに掲載した。

妹尾委員長	・ 委員から質問があれば、いただきたい。 ・ 特にないので、この年間スケジュールで承認する。
-------	---

(3) 年間活動方針及び計画案について

妹尾委員長	・ 今年度検討会年間活動方針及び計画案について事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【年間活動方針案】 ・ 一つ目は、「東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿Ver. 5」に基づいて研修内容を検討する。 ・ 二つ目は、基礎研修、実践研修、更新研修の3つの研修で使用する教材のブラッシュアップを図るとともに、3つの研修全体を見渡し、つながりを意識した研修プログラムを作成するということに取り組む。 ・ 三つ目は、各研修のファシリテーター説明会の内容を検討していただく。 ・ 四つ目は、令和6年度から更新研修に新たに追加されるスーパービジョンのプログラム案を作成、実施する。 ・ 五つ目は、質の高い研修を継続して実施するため、次期講師の育成と講師間の関係づくりを目的としたサービス管理責任者等研修演習指導者養成研修を実施する。 ・ サビ管、児発管研修は、まだまだファシリテーターの数が不足している。たくさんの方に協力頂けるような研修づくりを目指していきたい。 【検討チーム編成案】 ・ 今年度も、基礎研修、実践研修、更新研修の三つの研修チームを主体として皆様と検討していきたい。さらに演習指導者養成研修もチームをおく。 [基礎研修チーム] 吉田委員、相良委員、岡田委員、橋爪委員、横山委員 [実践研修チーム] 清水委員、小出委員、樋口委員、渡辺委員、宮田委員 [更新研修チーム] 徳武委員、会田委員、丹澤委員、皆川委員 [演習指導者養成研修] 相良委員、岡田委員 ・ 検討会のチームは、各分野の方をバランスよく配置している。分野の垣根を超えて、ぜひ活発な意見交換をしていただきたい。 ・ 専門コース別研修は、昨年度実施したプログラムを実施する。 【年間活動計画案】 ・ 資料4の年間スケジュールに合わせた形で、研修教材の作成スケジュールを表に落とし込んだものになる。 ・ 検討チームごとに講義資料、演習教材、進行マニュアルの検証とブラッシュアップ

	ップをいただき、成果物を作成するという考えです。 ・皆様で検討していただいた後に事務局が取りまとめて総合健康推進財団に提出するといった流れになる。
妹尾委員長	・委員から質問があれば、いただきたい。 ・特にないので、この年間活動方針案で承認する。

妹尾委員長	・次に橋爪委員から、4月のリーダー会の報告を、会田委員から更新研修の検討チームの令和6年度プログラム進捗状況について説明をお願いしたい。
橋爪副委員長	・4月にリーダー会を開催した。例年はそれぞれの分科会がどういう方向性でいくかの確認程度だが、今回はテーマを持ち、報酬改定で見えてきていた国の方針について話し合うことができた。ポイントになった点を話す。 ・先ず、意思決定支援。サービス担当者会議、個別支援会議には原則本人が参加となっているが、研修にはどう反映するかを意見交換した。基礎研修は、原則本人参加の方向性で行くと伝え、実践研修からは意思決定支援は重要なので、基礎研修の状況を見て、情報提供を増やすくらいの対応を考えたいというお話もいただいた。講義を含めて、改めてベースとなっている利用者主体、意思決定支援については強調していくという、確認が取れた。 ・個別支援計画の共有。作成後の指定特定相談支援事業所への交付義務についても基礎研修の演習の計画作成後、本人からのサインをもらう部分で相談支援事業所にも送付することを盛り込むというより、読み原稿で触れる形でやれたらいいなという話になった。 ・それと、地域連携。グループホームで言えば、地域連携推進会議、移行とか定着で言うと、支援会議というものが地域連携会議の1とか2という名称が変更など、地域連携が強調されたことはどうするか、会議の名称はどうするかということは、改めて確認することになった。基礎研修では連携までは深められないので、他の研修でお願いするところの確認した。 ・障害児のインクルージョンの推進、5領域を全て含めた総合的な支援を提供することが出たが、基礎研修では、児童分野については情報提供の質量についてまだまだ検討している部分がある。各分野の計画書フォーマットなどを巻末に載せるなど少しでも情報提供という話をした。実践研修としてもフォーマットを載せるなどの対応もしていきたいと思うが、フォーマットがまだ固定されていないので、要検討という話になった。国からも提示はされているが、まだ確定されていないのであれば、演習ノートではなく、スライドなどで触れていくのがいい、との意見も出た。 ・昨年から引き続けているOJTについての確認をした。つながりを意識した研修というテーマで、自立支援協議会のことが話に出ていた。実践研修は、この

	間の会議で大方のスタンスは出たので問題ないと考えている。更新研修は、実践研修と同じ内容でも復習でいいと考えているので、そういった方向で進めたいという話があった。 ・ 大方会議の中で触れたポイントは以上になる。
会田副委員長	・ 更新研修のプログラム作成の進捗状況は、追加された 7 時間部分を中心に検討している。 ・ 追加されたものの一つはサビ管としてのスーパービジョンの講義部分が 180 分、徳武さんと皆川さんとで分担して作成。講義の中にデモ動画を入れるので、台本に取り組んでいる。実践研修で会議を実際に回す内容を宮田さんが解説するようなデモ動画をスーパービジョン、グループスーパービジョンでつくるイメージ。 ・ 演習の事例検討のスーパービジョン 60 分。実際、会場に集まりサビ管として事例検討を回せるようになること、後輩がその事例検討を回せるように見守り、後押しできるような取組がどうできるかということ、皆川さん中心に作っている。 ・ 8 月にファシリテーターの方々に集まっていただき、スーパービジョン部分についての説明会をやれたらと思っている。それに向けても準備をしている。 ・ サービス提供職員へのスーパービジョン演習 2 時間追加は徳武さんが作っていて、ノート部分はほぼ出来上がり、演習の進行スライドを作成している。 ・ 研修のまとめが 60 分あるが、集合での演習で 30 分間、振り返りシートに取り組み、発表してもらい、他の受講者の方からエールを送ってもらう。国研修の取組を取り入れた。さらに演習後の動画配信で 30 分間、研修全体を通して、個人での振り返りを特に人材育成の課題についてワークシートを使って行う。丹澤さんのまとめコメントで終了となる。 ・ サビ管としての自己検証の演習が去年は 90 分間集合で行ったが、今年は集合型演習で 60 分、事後動画配信で 30 分と分けて行う。 ・ 事後動画を入れることで集合型演習日程を 2 日に増やさず実施できる見通しである。
妹尾委員長	・ 今の報告について委員から質問があれば、いただきたい。
丹澤委員	・ 先ほど会田さんが説明のスーパービジョンの説明会、8 月 6 日に対面で予定している。その後に資料の 5 の裏面のところ、9 月 13 日の説明会、国研修と重なっているので、日付変更になったかと思う。もう一度教えてもらいたい。
事務局	・ 9 月 13 日の説明会は、国研修と重なっているため、9 月 4 日となる。

(5) 各研修チーム活動について意見交換

妹尾委員長	・各研修検討チームに分かれて、意見交換をして頂く。 ・事務局から提案があった今年度の年間計画と活動方針を踏まえ、研修検討チームごとに検討を進めて頂きたい。 ・検討内容は、各研修検討チームの活動内容の確認と、演習教材作成のスケジュールを立てて頂くということになる。 ・各研修検討チームで話して頂いた後、検討結果の報告に移らせて頂く。
-------	--

各研修検討チームの報告

妹尾委員長	・これからは各チームの報告をお願いしたい。 ・各研修の副委員長の方から検討の結果の報告を5分程度をお願いしたい。
橋爪副委員長	・基礎研修は、演習指導者養成研修の話になった。去年、受講者が演習の参加時に困っている様子があった。どこが対応するのかを明確にしようという話になった。結論は、教室進行が見えていく。演習指導者養成研修の方々には分からなくなったら教室進行の方に聞くことを徹底させる。まずはそこを固めていく。 ・基礎研修の中では、教室進行は、検討会委員が中心であるといい。基礎研修の意見としてはずっと申し上げている。そうすることで、各研修担当同士の相乗効果もあるし、参加した研修にフィードバックされる。基礎研修のメンバーだけでなく、ここの全員の方が中心になるといい。その辺を改めてもう1回確認させて頂き、研修の意図がなるべく伝わる形の人選を再確認した。 ・新しい演習ノート作成中。基礎研修は演習8までであるが、昨年は割と後半を改訂した。今年は前半に力を入れて作ってきている。その演習ノート作成が最終工程に入り、意見交換をしているところ。
宮田副委員長	・実践研修は、今年度の研修に向けてプログラムの順番を入替える。昨年度、ご協力いただいた方々から行ったり来たりして分かりにくかったとご意見を頂いた。オリエンテーションの後、分野間の共通点を考える内容を最初に持つていく。研修の目的や分野はまたがっているが、共通点があるといった感じにしてから、事例検討会や助言指導、その後にモニタリングして再計画、最後に自立支援協議会の流れにプログラムを修正する。 ・意思決定支援は、もともと実践研修では1枚明確なスライドがあった。個別支援計画を説明して家族から同意を得る会議をロールプレイで行う部分でも強調して伝えようと考えている。 ・報酬改定で児童分野が5領域を個別支援計画に盛り込む話もあった。分野間の共通点を考えていた部分で、児童分野はアセスメントの区分のところに5領域が載っているので、軽く触れるような形で説明できればいいと考えている。 ・ICFは受講者の方にあまりご存じない方が増えてきたと感じていて、一つ一つきち

	んと言葉を説明していく必要があると感じる。 ・ロールプレイを3回やる。その会議の目的を伝えて、保護者への同意を得るところ、利用者への同意を得るところでは、意思決定支援の目的であるとか、事例検討会とかには先ほど更新研修でもあったように、スーパービジョン的な要素があるとか、目的を明確にして、ロールプレイを3回やる意味を受講者に伝えて、同じ繰り返しと感じられないように修正したい。 ・スケジュールとしては次回の全体会で、演習ノートの修正をみんなで持ち寄って検討したい。
会田副委員長	・更新研修は、今年度追加されたスーパービジョン、グループスーパービジョン部分について話した。丹澤さんの補足のとおり8月6日にファシリテーターの方向けにスーパービジョン説明会を行う。時程などまだ固めていなかったもので、詳細を詰めた。9時半から12時半の間3時間の設定で、集合型で行いたい。その中で、今年度追加されたスーパービジョンの講義部分を少しコンパクトにまとめて説明し、集合型で行う演習4の事例検討のグループスーパービジョンをどう行っていくかというのを、ファシリテーターの方にも体験していただく。その後は演習後のサービス提供職員に対してのスーパービジョンも体験して、当日の演習のイメージを持って頂けるといい。 ・それに向けて6月中にはグループスーパービジョンのデモ動画の配役を決め、デモ動画の台本も完成しないといけない。グループスーパービジョンで取り扱う事例も急ぎ固めないといけないという話にもなった。
妹尾委員長	・各研修チームの委員、報告ありがとうございました。特に各グループの補足またはご質問等如何か。
各委員	(発言なし)

(5) つながりを意識した研修プログラムの作成について

妹尾委員長	・検討事項の5、つながりを意識した研修プログラムの作成に入る。 ・令和4年度は東京都のサービス提供事業者において、障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿V e r . 5の中に学びのステップの整理を位置づけた。5年度は、各検討チームで研修プログラムと資料への反映を行った。少しずつ積み上げ、変更、バージョンアップをしている。令和6年度も引き続きつながりを意識した研修プログラムの作成について取り組んでいきたい。 ・前回の会議だったか、本来なら、このつながりという部分だけで1回ぐらいしっかり議論をする時間が欲しいという意見もあったが、現実的には難しいところであった。 ・本日までにいろいろ話合いの機会があった中で、横断的な部分に関しての意見やこのつながりというところに意見が出ていたら、共有したり、提案したりしていただきたい。どなたからか発言いただけるか。
宮田副委員長	・先日リーダー会で話が出たO J Tの言葉について、基礎研修の演習の最後に説明をし

	て、実践研修でもワークの中に説明を踏まえ受講者の実際のＯＪＴを振り返るワークがある。文言の検討で会議名の名称を修正した。そのことを全体で共有したい。その資料は手元にないが。
横山委員	・基礎研修の最後でＯＪＴを紹介する場面がある。「個別支援会議の進行担当をしてみましょう。」にある。 ・昨年「事業所内の個別支援会議の司会、進行を担当しましょう」が、今年「個別支援計画作成後に利用者さんに説明をするための会議の進行」になったが、そこを整理して、「個別支援会議の進行を担当する」という文言に変えてみてはどうかということで、基礎研修に提示したものと実践研修からの手紙との相違がないように調整をした。そのことかと思う。
妹尾委員長	・その他に何かこのつながりをとか横断的な部分で意見が委員会の中で出たとか、グループの打合せで出たようなことを出していただきたい。
横山委員	・これは、これからすぐに検討していくが、よく相談支援から支給決定が下りてというモデルの図を国研修から引っ張ってきている。個別支援計画の原案を作成しましょうと書いてあるが、基礎研修では原案は最後にしか出てこない。実践研修や更新研修で原案になっていると、相違が出てくる。出ている相違の修正をすることは、つながりとしては必要ではないか。
妹尾先生	・一つ一つのところ、一般的に使われている言葉が微妙にずれていないか、使用の意図がずれないかを、もう一度各研修の中で検討頂き、場合によっては洗い出して頂いて、間に合えば今年度中に少し統一感を出すことをご検討頂きたい。その他如何か。
会田副委員長	・細かい話で、利用者さんとの面接なのか、面談なのかで、言葉を統一できたほうがいいと言って、面談という話になった。
事務局	・利用者の方を利用者さん、ご利用者さん、利用者、多分３パターンぐらいある。できたらこれも統一できるといい。如何か。
橋爪副委員長	・記載で利用者さんとなっているところもある。記載は統一したい。個人的には、利用者でいい、呼び方はまたそれぞれ。
横山委員	・利用者つながりかもしれないが、保護者と書いてあったり、家族と書いてあったり、何年か前のファシリテーター説明会でも議論になったこともある。成人の方にも保護者と使うのはどうなのだろうという疑問も湧いてきたり、子供であっても１８歳から基本的にはもう成人に変わってきたりするので、家族なのかとか、その辺も統一するといいかと。
橋爪副委員長	個人的には家族でいい。如何か。
宮田副委員長	・家族でいい。 ・児童分野の方は利用者自体にもなじみがない。利用者って何ですかと聞かれたとファシリテーターに言われた。多分それも違和感がある。何と呼んでいるのと聞くと、その人を名前でしか呼ばなくて、利用者とかそういう感じの言い方をしないとされた

	ので、多分、児童分野の方は保護者になじみがあるかもしれない。文言を統一するがゆえに、児童分野がどんどんずれていかないようにしたい。「利用者さん」に質問を受けたと言われたときに思った。
妹尾委員長	・児童関係の方は総称的な呼び方をあまり好まれない傾向がある。お一人お一人の名前を呼ばれる感じがある。全て保護者の同意みたいところが契約関係でも強くなる。それを転換して頂くのは大変なこと。どこに着地点を見つけていくかは検討課題である。 ・今日は皆さんがお互いの意見に触発されながら、いろいろつながりに関するところで活発なご意見いただけた。 ・それでは、最後にまとめに入る。本日の議事録と資料のホームページの公開について委員の皆様、ご了承いただけるか。
各委員	(異議なし)
妹尾委員長	・ありがとうございました。本日の検討事項が済んだことを宣言し、進行を事務局に戻す。
事務局	・妹尾委員長、司会、進行ありがとうございました。皆様も活発なご意見ありがとうございました。 ・本日の検討会はこれで終了とさせていただきます。 ・次回第2回検討会は8月8日木曜日の午前10時から12時を予定している。場所はこちら心障センターの12階の研修室、詳細については改めて案内をさせて頂く。 ・この後、本日の議事録要旨案を作成し、メーリングリストで皆様に確認をお願いする。ご確認をいただいた後、本日の資料とともに東京都心身障害者福祉センターのホームページに公開させて頂く。 ・以上で閉会とする。